



森や木をニホンジカから守る

山梨県の人工林ではニホンジカやツキノワグマなどの野生動物による被害が顕在化しています。近年では、人工林のみならず天然林や高山帯にまでその影響が及んでいます。

野生動物の影響に対する適切な対策には、①個体数（群）の管理（増えてしまった個体数（群）を減らす）・②生息地管理（これ以上増やさない）・③防除（被害を防ぐ）の三者で取り組むことが必要とされています。その中でも林業が直接対応できるのは主に③防除です。

山梨県森林総合研究所では、県内外で行われている防除方法に関する事例集を平成 21 年に作成しました。その中から、ニホンジカ対策に関する内容を抜粋してお伝えします。

防護柵

ニホンジカは、「群で行動する」こと、被害が「葉や幹の食害」「角こすり」「踏み荒らし」と多岐に渡るため、防護柵が効果的です。

➤ 留意事項

- ◇ 大面積を囲うよりも小エリアごとに設置
 - 一ヶ所が破れても被害が一エリアですむ
 - 補修が容易
- ◇ 継続的な管理が必要
- ◇ 柵を設置した場所を利用していたニホンジカは代替地を求めて他の場所へ移動し、そこで新たな被害を発生させる
- ◇ 防護柵は被害を局所的に回避する手段のひとつ

資材別の柵	良いところ	悪いところ
漁網柵	<ul style="list-style-type: none">・ 安価で設置が容易 (~2,000 円/m)・ 高機能ポリエチレンネットでは落雷の危険性がない	<ul style="list-style-type: none">・ 効果がやや劣る。・ シカが角や脚を絡ませることがあり、定期的な巡視・管理が必要。・ ステンレスで補強されていない網は噛み切られことがある。

資材別の柵	良いところ	悪いところ
遮光ネット柵	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価で設置が容易 (～1,500 円/m) ・ シカが警戒する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強風や積雪に弱い。 ・ 耐久性がやや劣る。 (数年程度)
電気柵	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価で設置が容易 (～1,500 円/m) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漏電防止のための草刈り管理 などが必要 ・ 人間が触れたりしないように 注意が必要 ・ 設置場所が限定。
金網フェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い効果 ・ 長持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やや高価。 (～10,000 円/m) ・ 設置に労力がかかる。 ・ 設置場所が限定。

忌避剤・保護資材

若齢造林地では、枝葉の食害を防ぐために苗木への忌避剤の散布・塗布やネット又はチューブ状の保護資材で覆う対策があります。

➤ 留意事項

◇ 枝葉の食害発生時期に合わせた忌避材の散布・塗布

- 山梨では一般的に秋から春までの冬季に行われている
- 他の時期にも被害がある場合は、それに応じて施工する

◇ 樹型変形のリスク

- 枝や梢端が引っかかり樹型が変形する可能性が高いので経過観察が必要

防除資材		良いところ	悪いところ
忌避剤	ジラム水和剤(例、 コニファー水和 剤)	・ 施工(散布)が容易	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有効期間が2～3ヶ月。 ・ 水が必要。 ・ 水生生物に強い影響がある。
	チウラム塗布剤 (例、ヤシマレン ト)	・ そのまま塗布するため水が不 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有効期間が2～3ヶ月。 ・ 水生生物に強い影響がある。

防除資材		良いところ	悪いところ
保護資材	ネット（例. ラクトロンなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品によっては生分解性のため、回収の必要がない ・ 通気性がよく苗木が蒸れない ・ 支柱に弾力性があるため風雪に対して強い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単価が高い。（～1,000円/本） ・ 支柱は生分解性でないため回収が必要。 ・ ネットの網目に引っかかり樹形変形の可能性がある。
	チューブ（例. ウッドガードなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品によっては生分解性のため、回収の必要がない ・ 成長促進効果もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単価が高い。（～1,000円/本） ・ チューブ内に発生したつる等の除去が困難。 ・ 製品によっては苗木が蒸れる。 ・ 製品によっては上部の折返しに梢端が引っかかる可能性がある。

ニホンジカとのつきあい方

ニホンジカによる被害が発生したり発生が予想される場合には、適切な防除法を採用することが被害の軽減につながります。

しかし、個々の対策を行っても、ニホンジカはほかの場所へ移動して影響を及ぼすため、個体数（群）の管理（増えてしまった個体数（群）を減らす）ことが最も重要です。

個体数管理を行うにあたっては、個体数を増やす要因（例えば、伐採跡地・林道法面・牧草地などのエサが豊富な生息地）にも目を向けないと、個体数も被害も減りません。

したがって、個体数と被害を減らすためには、生息地管理（これ以上増やさない）に取り組むことも大事です。

今回の普及通信では、ニホンジカの防除事例についてお伝えしましたが、野生動物の被害を防ぐには、様々な取り組みを有機的に組み合わせて実行していかなければなりません。

監修：山梨県森林総合研究所
森林研究部
研究員 長池卓男

編集 普及指導部
林業普及指導員 中桐秀晴
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002